

生活を 支え合う 天伯校区

高齢者の困りごとを 校区で解決する!

畑や田んぼが広がる天伯校区。その中にある天伯団地では、自治会と協力して、支え合い活動に取り組んでいます。その支え合い活動などに参加して天伯団地のために活動する中山さん。

天伯校区の特徴や、「ひだまりの会」について紹介します。



中山道子さん

民生委員を5期務める中で、地域の中で支え合う活動ができればと天伯団地の支え合い活動「ひだまりの会」の立ち上げに携わった。

「高齢者が多い場所だからこそ、支え合うことが大事。」

天伯団地は昭和46～48年にかけて誕生。この地域に移り住んだ人が歳を重ね、住民の約80%が65歳以上になりました。高齢者の一人暮らしも多く「みんなと気軽に集まれる場所がほしい。」「日々の買い物に困る。」などの声がきっかけとなり、平成28年に「ひだまりの会」ができました。活動内容は、高齢者の買い物の付き添いや草むしり、通院の送り迎えなどさまざま。住民同士でお互いを支え合いながら「元気な天伯団地」を目指しています。生活を支えるだけでなく、天伯団地公民館でおしゃべりをす

る居場所づくりや健康を保つための健康教室なども行っています。活動の中には手芸クラブもあり、コロナ禍では手作りマスクを作つて天伯団地に配布し、喜んでもらえました。コミュニティがあることであいさつが増えたのも嬉しかったです。互いに支え合う活動を通して、団地内だけではなく校区の連携をより深めていきたいです。」と中山さんは話してくれました。

買い物などの付き添いで
生活を支えます。



健康を保つための健康教室も開催。



地震の際に安否確認をするための
黄色旗を製作中。



天伯対談

クラストコ対談
生活を支え合う



横田さん 横田さんは、天伯団地自治会長として、天伯団地を良くしたいという想いを持っています。住民のニーズに応じて、様々な活動を行っていると語ります。

中山さん 中山さんは、天伯団地の歴史や、天伯スイカについて語ります。

横田さん 天伯は田んぼや畑も多く、アクティブで明るい農家さんがたくさん! 買い物の付き添いなどをするほど、世話好きな人が多いので互いに支え合うことができているのかなと思っています。

中山さん ところで、天伯と言えば天伯スイカ! 遠方のファンも多いですよね。もっといろんな人に「天伯スイカ」を知って欲しいです!

横田さん 「天伯スイカ」は天伯校区の名物。このスイカを食べないと夏が始まらないと思うくらい大好きな果物です。とてもこだわって作っているので、ぜひ味わって欲しいですね。

中山さん この会ができる前から、住民同士の連携が深まりました。特にそう感じたのは「防災訓練」。高齢者が多い校区なので、震度5弱以上の地震が来た時に、家の前にある植木鉢などに黄色の旗を立てていれば元気・大丈夫と知らせる仕組みを作りました。若い人たちが旗の有無を確認し、旗がなかったらすぐに助けが必要だと対応できます。協力をしてくれる住民には感謝です。

**天伯団地自治会長
ひだまりの会 副会長
横田 順一さん**



**中山さん
イチオシ!**

**天伯校区
おすすめスポット**

豊橋技術科学大学
天伯町雲雀ヶ丘1-1



留学生も多い国際的な環境のもと、機械工学や建築、情報・知能工学などの課程・専攻があり、次代を切り拓く研究を行っている工科系の国立大学。新しくきれいな図書館は、地域住民も利用できます。

天伯スイカ

天伯スイカの歴史

天伯校区では昭和初期からスイカの栽培を行っており、甘く質の高い「天伯スイカ」はブランド化され、豊橋の名産として知られています。



天伯スイカの味わい

冬でも比較的温暖な気候で、春は適度に雨が降る豊橋で作られるスイカは実に旨味が詰まっており、甘みとシャリッとした食感が特徴です。出荷は6月がピークで、約4,000トンのスイカを市場に出荷しています。

**天伯スイカ農家
中田 ひろ男さん**

天伯校区で30年以上スイカ農家を営む。

中山さんにとって「支える」とは?

ご近所さん同士で助け合うこと。昔のことわざで、「遠くの親戚より近くの他人」という言葉があります。いざという時は、身近な他人にお世話になるのです。だからこそ、今周りの方のために自分ができることをやっています。

豊橋南部青果
天伯町字東天伯82-22



農産物などの卸売を行っています。夏には、天伯スイカのほか、メロンなどの農産物が数多く販売され、多くの方が訪れます。

自慢のスイカは甘みたっぷり!
ぜひ、味わってみてくださいね。

